



今回は、「未来につなげる防災プロジェクト」の報告(その1)です。

◇ インフラ改良と活用、防災活動の充実は、持続可能な地域発展に必要です。



◇ さくら塾 防災 (I) 身近なところから防災を考える～校内安全点検を見直す～

今年度、保健委員会が「防災」に取り組むことになった。「防災」を考えたとき、地域の避難所になる可能性がある学校として、学校内だけではなく「地域」と連携をして防災を考えることが大切であるということで、保健委員会と防災リーダーが協力してSGHの取組みの一環としてプロジェクトを立ち上げた。そのため今回は校内の研修ではあるが関市役所にも声をかけ、市役所から4名(危機管理課・教育委員会)参加をしていただいた。

第51回 さくら塾

期 日： 2018年8月8日(水) 14:00～17:30

場 所： 岐阜県立関高等学校 桜ヶ丘会館 特別教室

講 師： 岐阜大学地域減災研究センター 准教授 村岡治道氏

参加者： 保健委員・防災リーダー 関市役所危機管理課職員

- 日 程：
- ・震災の映像や、揺れの実験映像を見ることにより「揺れ」をイメージ・想像し、安全点検を行なうときの危険箇所を理解し、チェック方法を学ぶ。
 - ・実際に村岡先生と一緒に校内を巡回し、危険箇所を確認。
 - ・普段行なっている避難訓練やシェイクアウトを見直す。

<基礎講座>

災害が起こったとき、その瞬間、諦めずにその時できる最大限のことを行なうことは大切。しかし、そうなる前にやっておくことがある。それが「防災」。「私が」何をできるのか。

村岡先生は、大切なことは「危険予知」の力だといわれた。そのために危険を見抜く感覚、力を身につけてほしい。そして危険に対する「目利き」になり、「危ない」という判断、見きわめができる人になってほしい。

「危険」に対する見きわめを正しく判断するためには、まず地震の「揺れ」をどれだけイメージ・想像できるかが大切なポイントになる。そこで、東日本大震災・熊本地震等の実際の映像や写真を見たり、実験の映像を見て「地震の揺れ」の恐ろしさを実感した。棚や食器棚、箆箆が倒れて足の踏み場もない状態や、テレビが飛んできて壁に突き刺さった跡、部屋の中をキャスターがついた大きなコピー機がまるで踊るように動き回る映像、体育館舞台下のキャスター付きイス収納台が扉を突き破り、体育館中央まで飛び出してきていた写真、家の瓦が次から次へと何棟にもわたって順番に落ちていく映像に生徒たちの眼は釘付けになった。

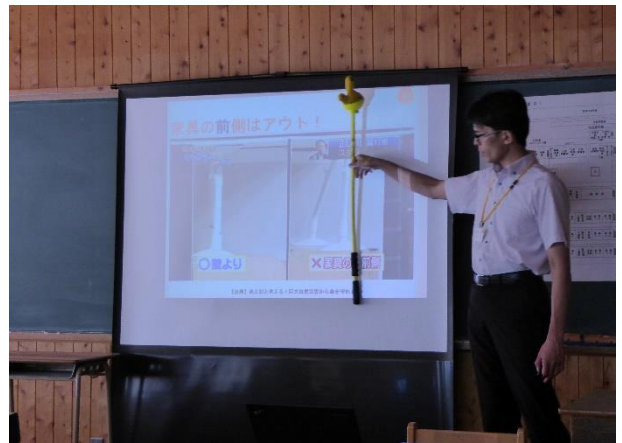
「揺れ」のイメージができたところで早速基礎編。方眼用紙に自分の家の一部屋を選び、家具の配置や電気の位置、ドア、窓を記入させた。「揺れ」がきたらどのように家具は倒れるか、ガラスの飛散は？寝ている時に地震が来たら窓ガラスは顔の上に飛散しないか、倒れた家具は出入口を塞がないか・・・等の観点から各自学んだ「危険予知力」を働かせて自分の家の「危険」を検討した。ただし今回正解は示されず、各自家に持ち帰り、家族と共に話し合うことが大切だといわれた。

次によくある家具の固定。固定には突っ張り棒やL字固定、家具の下に台をかませた固定等がある。しかし、中には間違った方法で行なっている場合も多く、その場合は「やったつもり」になっているだけで全く効果がないことを失敗パターンとして映像で確認した。

<校内巡回 安全点検>

事前に保健委員会が行なった校内安全点検の結果と、彼らが危険だと判断した箇所の写真を村岡先生に送ってあったが、高校生が考えた「危険箇所」と実際の「危険箇所」は、ずれがあることを先生から指摘された。基礎知識を学び、少し「目利き」ができるようになった高校生は納得。

その後、村岡先生と一緒に校内を巡回。一般家庭の安全点検が基礎編なら学校の安全点検は応用編。先程学んだ基礎知識をもとに実際に教室、廊下、特別教室、準備室を確認した。回りながら村岡先生は生徒たちに「この部屋のどこが危険だと思う？」「ここを思い切り揺らしてごらん。」「この固定をどう思う？」「ここから眺めてみてごらん。」「なぜ危険なのかわかりますか？」「やっぱりこの学校も同じ失敗をしていますね。」「これ微妙・・・。」等分かりやすく生徒に話しながら約1時間かけて校内の危険箇所を確認した。生徒たちは「全く気がつかなかった・・・」「学校にこんなに危険がいっぱいあったなんて知らなかった。」「今までこんな見方はしたことなかった。」等驚きの表情。基礎知識に加え、実際に現場を見ることにより危険の見きわめの力はつけることができたと思う。



<命を守る訓練>

どこの学校でも行なわれている「命を守る訓練」。他校の訓練の映像を確認しながら「何がアウト」なのか確認をした。普段何も考えず机の下に潜り、言われるままに列を作って少しでも早くグラウンドに出る「命を守る訓練」。しかし火災と地震の避難は異なる。震災のとき、放送は使えるか？シェイクアウトでダンゴムシポーズや机の下に潜るよう指示されているが、その潜り方で大丈夫？（実験ではダンゴムシポーズは転がり、机は倒れた）建物から外に出る際、上からの落下物の危険性は？グラウンドにひびが入った学校もある・・・、地震の揺れは一度とは限らない。東日本大震災は3回大きな揺れが来たといわれており、南海トラフは3～4回大きな揺れが来るといわれている。集団で避難の最中に大きな揺れが来たら・・・？等「想定」に安心するのではなく、「想定外」は普通に起きるものだという認識をもち対応を考えることが大切。

最後に、実際に生徒がダンゴムシポーズの実験をした。普通のダンゴムシポーズをとった場合は人に揺らされただけで転がり、机の下に潜っただけでは人の力で机を揺らしただけで机と人は倒れた。先生から教えられた低い姿勢のダンゴムシポーズでは数人が力を入れて揺らしても耐えることができ、机も倒れなかった。

◇ 感想

- 「想定外」を「想定」した視点で改めて普段自分達が生活している学校を見てみると気がつかなかった「危険箇所」がたくさんあることに驚いた。
- 南海トラフによる大地震がいつかは起こるということで「命を守る訓練」「3日分の備蓄」とか避難所の確認とか色々と言われてきたけれど「それ以前」に自分達に何ができるのか、「私」が何ができるのかを考えなければいけないことを知ることができた。
- 防災を考えると、決して1人で考えないことが大切だと言われた。実際に校内を巡回したとき、自分では全く気がつかなかった箇所が危険であると指摘されたところが多くあった。複数の眼で見て複数の頭で考えることが大切だと実感した。
- 「防犯」と「火災の防災」と「地震の防災」は異なっている部分が多くあり、避難訓練や安全点検ではそれらが一緒になってしまっていると思った。金網が入ったガラスも防犯には有効だが地震には全く価値がないことに驚いた。
- 突っ張り棒やL字金具、ベルト等で家具の固定を行なっても正しい知識で行なっていないと「やってるつもり」になっているだけで実は全く価値がなく危険であることに驚いた。
- 今までやってきたシェイクアウトでダンゴムシのポーズをとっても少し揺らされただけで転倒してしまうし、机の下に潜っても揺れが強いと机ごとひっくり返ってしまった。正しいシェイクアウトのダンゴムシポーズは初めての経験でしたが全校生徒に広める必要があると思った。